

水生生物の保全に係る水質環境基準の水域類型の指定について

1 水生生物の保全に係る水質環境基準の水域類型の指定の経緯

水質の汚濁に係る環境上の条件については、環境基本法（平成5年法律第91号）により、人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持することが望ましい基準（水質環境基準）を定めることとされている。

水生生物の保全に係る水質環境基準（以下、水生生物保全環境基準）は、水生生物の生息状況の適応性に応じて河川及び湖沼で4つ、海域で2つの類型が設けられ、類型ごとに基準値が定められている。

都道府県知事は、同法に基づき水域の類型を指定（二以上の都道府県の区域にわたる木曽川等の水域は国が指定）することとされている。

本県では、2009（平成21）年に河川12水域、2012年（平成24）年に伊勢湾4水域、2013（平成25）年に河川30水域、湖沼1水域の類型指定が行われ、現在47水域が類型を指定されている（表1、図1）。

今回、本県が法定受託事務として類型指定を行う水域のうち、最後の水域となる三河湾について、水生生物保全環境基準の類型指定を行った。

表1 公共用水域（河川、湖沼、海域）における水域類型の指定の状況及び水質環境基準

水域	類型	水生生物の生息状況の適応性	水域数	基準値		
				全亜鉛	ノニルフェノール	L A S
河川及び湖沼	生物A	イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	6	0.03 mg/L 以下	0.001 mg/L 以下	0.03 mg/L 以下
	生物特A	生物Aの水域のうち、生物Aの欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0	0.03 mg/L 以下	0.0006 mg/L 以下	0.02 mg/L 以下
	生物B	コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	37	0.03 mg/L 以下	0.002 mg/L 以下	0.05 mg/L 以下
	生物特B	生物A又は生物Bの水域のうち、生物Bの欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0	0.03 mg/L 以下	0.002 mg/L 以下	0.04 mg/L 以下
海域	生物A	水生生物の生息する水域	1	0.02 mg/L 以下	0.001 mg/L 以下	0.01 mg/L 以下
	生物特A	生物Aの水域のうち、水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	3	0.01 mg/L 以下	0.0007 mg/L 以下	0.006 mg/L 以下

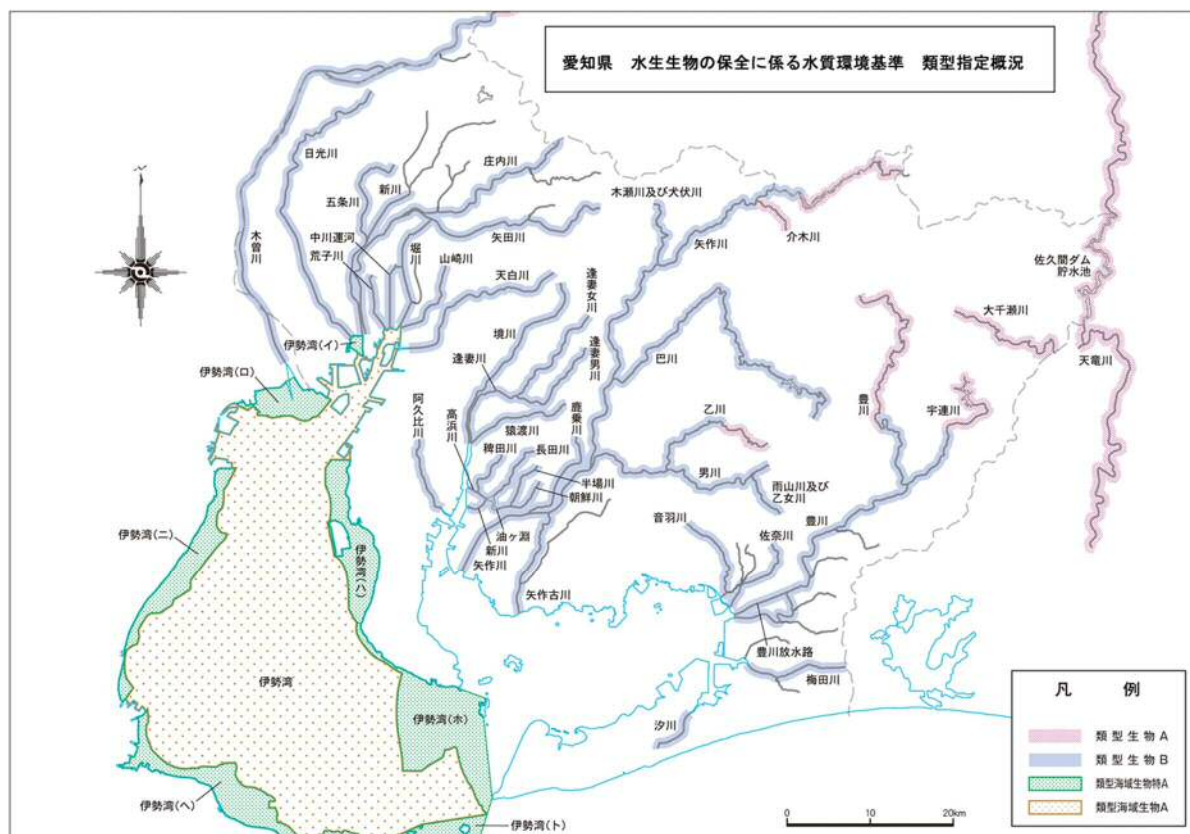


図 1 水生生物の保全に係る水質環境基準類型指定概況

2 水生生物保全環境基準の類型指定の方針

水生生物保全環境基準の類型指定については、「環境基本法に基づく環境基準の水域類型の指定及び水質汚濁防止法に基づく常時監視等の処理基準について」（2015（平成 27）年 3 月 31 日環水大発第 1503311 号、環水大土発第 1503312 号、以下「処理基準」という。）により、以下の項目についての情報を把握し、整理することが示されている。

- ア 水質の状況
- イ 水温の状況
- ウ 水域の構造等の状況
- エ 魚介類の生息の状況
- オ 産卵場（繁殖場）及び幼稚仔の生育場に関する情報

そこで、本県においては、処理基準に基づき、2019 年度から 2020 年度にかけて三河湾における水生生物の生息状況の適応性を調査した。

また、海域における水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域（生物特 A）については、「水生生物の保全に係る水質環境基準の類型指定について（第 2 次答申）（2008（平成 20）年 6 月 中央環境審議会）により、以下の考え方が示されている。

- ア 水産資源保護法に基づき、保護水面に指定されている水域
- イ 保護水面に設定されていない水域であっても、漁業関係者等によってこれと同等以上に産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている水域
- ウ 地形、水質、底質及び藻などの沿岸の植生などが当該魚類の産卵場等として適した条件にあり今後ともその条件が保たれうる水域

水生生物保全環境基準の類型指定は、処理基準に基づき実施した調査結果及び国の基本的な考え方にに基づき、三河湾の状況に合わせた水域類型指定を行う方針とする。

3 三河湾における水生生物保全環境基準の類型指定の考え方

(1) 類型指定の設定方法

本県では、処理基準及び水生生物の生息状況の適応性調査の結果から、三河湾における特別域（生物特A）は下記の理由により設定する。

- ・藻場、干潟、浅場（泥質除く、5 m以浅）、水産資源保護法に基づく保護水面を特別域とする。ただし、貧酸素水塊の範囲を除く。
- ・5 m以浅であれば、貧酸素の影響が少ないとして特別域とする。
- ・藻場、干潟については、ある程度まとまった水域（主要な場）を特別域とする。
- ・入り組んだ形状や、飛び地となる特別域については、近傍の特別域と連続性を持たせて指定する。

(2) 達成期間の設定方法

処理基準及び伊勢湾における国の類型指定の事例を参考に、全亜鉛、ノニルフェノール、LASの既存調査結果により、達成期間を設定する。

＜参考：達成期間の区分＞

イ：直ちに達成

ロ：5年以内で可及的速やかに達成

ハ：5年を超える期間で可及的速やかに達成

(3) 環境基準点の設定方法

水質環境基準の達成評価に用いる環境基準点については、国により以下の考え方が示されている。

- ・水生生物の生息状況等を勘案すること
- ・既存の環境基準点・補助点を活用すること
- ・水域の状況を適切に把握できること

上記の考え方を基本とし、富栄養化項目の指標である全窒素、全りん的环境基準点を活用し、水生生物保全環境基準の基準点を設定する。

4 三河湾における水生生物保全環境基準の類型指定

3 三河湾における水生生物保全環境基準の類型指定の考え方に基づき、三河湾における水生生物保全環境基準の類型指定状況を表2、図2に示す。

表2 水域毎の類型指定・達成期間・環境基準点

水域区分	水域	類型	達成期間	環境基準点
三河湾	三河湾（イ）	生物A	イ	K-3, 4, 5
	三河湾（ロ）	生物特A	イ	A-6
	三河湾（ハ）	生物特A	イ	K-6, 8 A-9, 14
	三河湾（ニ）	生物A	イ	A-4, 5, 7, 8
	三河湾（ホ）	生物特A	イ	A-12

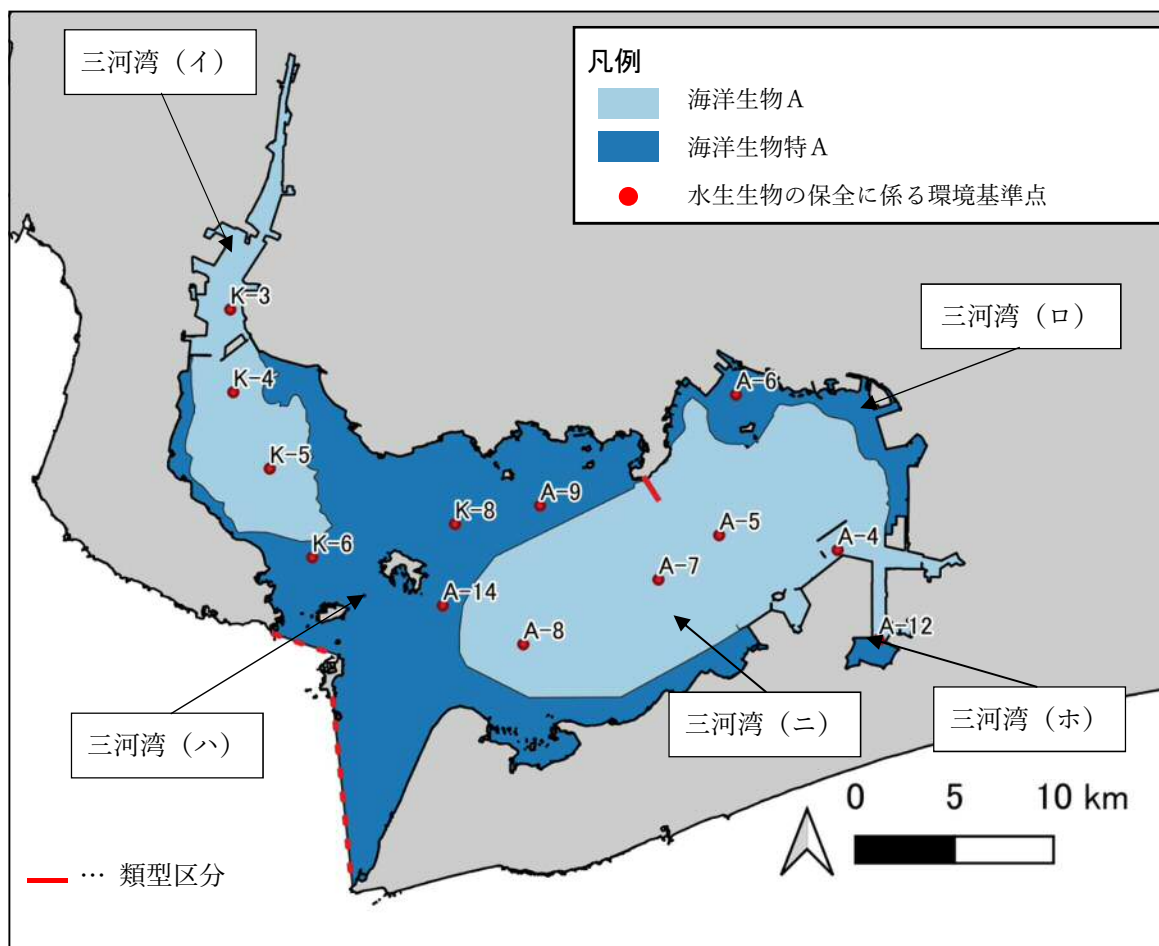


図2 水域毎の類型指定・環境基準点